

日々を象(かたど)る Giving Forms to Daily Life

2020年4月11日(土)–7月5日(日) (予定)

※新型コロナウイルス感染症拡散防止のため、状況に応じて会期を変更する可能性があります。
最新情報は当館ウェブサイトとツイッターで随時お知らせいたします。



何気ない日常の光景を描く作品と、何気ない表現にこめられた思い。描き、作ることで日々をかさねる作家たちと、積みかさねられた作品が発する力。絵画や素描、立体の作品を中心に、当館のコレクションから制作と(非)日常をめぐる幾つかの視点を立てて作品を選びすぎりました。見知った世界から引き出された、感性に響くイメージとの出逢いを展示室で体験してください。

A

展覧会の見どころ

1 自然の息吹を感じ取る

私たちの生きる世界を満たす大気や風、大地と緑。つねに時間の中で生まれ、変化していく自然のすがたを、美術家たちはどのように色や形でとらえてきたのでしょうか。「景色」の向こうに豊かな気配が広がる作品をお楽しみいただけます。

2 日常と表現のつながりを考える

絵画や彫刻はしばしば静止した「立像」や「座像」として人体を表してきました。では、日常の動きである「歩く」姿、それが一時停止した「たたずむ」姿が作品になるときは？ 静けさとリズム感、写実性と非現実感をあわせもつ作品から、美術の魅力を考えます。

3 佐野繁次郎のドローイングを特集

戦前のパリでマティスに師事した佐野繁次郎(1900–1987)。洒落な絵画とならんで高い人気を誇るのが、挿画や装幀に用いられたドローイング(線描画)の仕事です。フランスと日本の日常風景をとらえたエスプリに溢れる佐野のドローイングを多数紹介します。

開催概要

日々を象(かたど)る
Giving Forms to Daily Life

会 期：2020年4月11日(土)–7月5日(日)

会 場：神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

開館時間：午前9時30分–午後5時(入館は午後4時30分まで)

休 館 日：月曜日(5月4日は開館)

主 催：神奈川県立近代美術館

観 覧 料：一般250(150)円／20歳未満・学生150(100)円／65歳以上と高校生100円

*()内は20名以上の団体料金です。中学生以下と障害者手帳等をお持ちの方(および介助者原則1名)は無料です。
*ファミリー・コミュニケーションの日(毎月第1日曜日：5月3日、6月7日、7月5日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は割引料金(65歳以上の方を除く)でご覧いただけます。また同日は会話を楽しむ日「オープン・コミュニケーション・デー」となりますので、小さなお子様連れの方も遠慮なくご覧ください。
*その他の割引につきましてはお問い合わせください。

関連イベント

※詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。なおイベント内容は変更される場合があります。
※すべて申込不要、参加無料。ただし展示室で行われる企画は本展の当日観覧券が必要です。

○担当学芸員によるギャラリートーク

日時：4月18日(土)、6月13日(土) 各日午後2時–2時30分 場所：鎌倉別館 展示室

○館長トーク

日時：5月31日(日) 午後2時–2時30分 場所：鎌倉別館 展示室

広報用画像データ一覧

展覧会広報用として、画像データをご用意しております。ご希望の場合は、メールにてお申し込みください。
その際、次の必要事項の明記をお願いいたします。

展覧会名／希望画像のアルファベット／社(団体)名／媒体名／掲載予定日／担当者名／連絡先

B



C



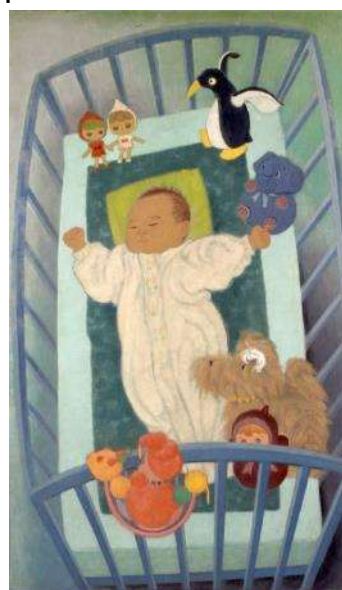
D



E



F



画像キャプション

A 松本陽子《私的光景》2005年 油彩、カンヴァス 神奈川県立近代美術館蔵

B 青山義雄《アトリエ》1925年 油彩、カンヴァス 神奈川県立近代美術館蔵

C 松本竣介《街にて》1938年 ペン・墨・鉛筆、紙 神奈川県立近代美術館蔵

D 岸田劉生《初夏の麦畑と石垣》1920年 油彩、カンヴァス 神奈川県立近代美術館蔵

E 岡崎和郎《招福猫児》2006年 石膏に彩色 神奈川県立近代美術館蔵 photo by ©Tadasu Yamamoto

F 木下翔返《裔子》1963年 紙本着彩 神奈川県立近代美術館蔵

【お問合せ】 神奈川県立近代美術館 鎌倉別館

広報担当: 八木 展覧会担当: 三本松、長門

Tel: 0467-22-5000 Fax: 0467-23-2464 E-mail: info.kinbi.474@pref.kanagawa.jp

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-8-1 <http://www.moma.pref.kanagawa.jp>